

「ビオトープ②」
～ヤゴの誕生・メダカのお引越し～

令和7年 12月 3日

ビオトープで嬉しい出来事がありました、それはヤゴ（とんぼの幼虫）が誕生していたことです。そのことを子どもたちへ伝えと、「とんぼ」は空を飛んでいるのに、どうして赤ちゃんは水の中にいるの？と心の中で不思議な気持ちが芽生えていました。10月頃まで、園庭をとんぼ（アキアカネ）が飛び回る様子があったので、きっとこのビオトープを産卵場所に選んでくれたのだと思います。

その後は、水面から目を凝らして「ヤゴ」探す子どもたちの姿がよく見られるようになりました。ようやく見つけれられた時には、自分が感じたこと体験したことを先生や友だちに一生懸命に伝える姿がありました。このように自分の思いを聞いてもらえること、受け入れられる感覚は、自己肯定感につながる大切なことです。これからも子どもたちの声に耳を傾けながら、豊かな体験ができる環境づくりに努めたいと思います。



「ここにいるよ～」
「何を食べているのかな？」



大きさの違う3匹を見つけることができました。
ビオトープには何匹いるのでしょうか。



「これがヤゴだよ」～友だちに教えている様子～



引越した“メダカ”たち



★ヤゴはメダカを捕食してしまうため、しばらくの間、ビオトープにいるメダカは金魚鉢に引っ越しをしてもらうことになりました。金魚鉢は、職員室のガラス窓の近くに置き、子どもがよく見えるようにしています。



ヤゴの脱皮



ヤゴの顔をよく観察すると“とんぼ”が想像できるような顔のパーツに近づいていました。
ヤゴは食べものをとらえるときに、口の下にある長いあごがとび出すそうです。
偶然にもその瞬間を見ることができました。
ヤゴの体の仕組みに驚き、興味津々の子どもたちでした。



水の中にいた“タニシ”は、いつの間にかこんなに大きくなっていました。
子どもたちは触れていくうちに親しみが湧いてきたようです。「みどり幼稚園 ジャンボタニシがいいんじゃない〜」とタニシに名前をつけようと、みんなで話し合っていました。

